

MakCellと手培養の比較評価

細胞種：253G1

培養液：AK02N (Ajinomoto), CultureSure Y-27632 (Wako)

培養容器：Falcon (Φ60, Φ100, 6-well, 12-well, 24-well), SUMILON (Φ90)

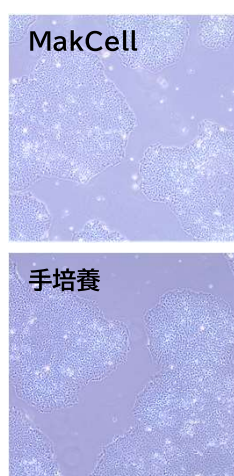
コート：iMatrix-511 (Nippi); 0.5 μg/cm²

播種細胞数：1300 cell/cm²

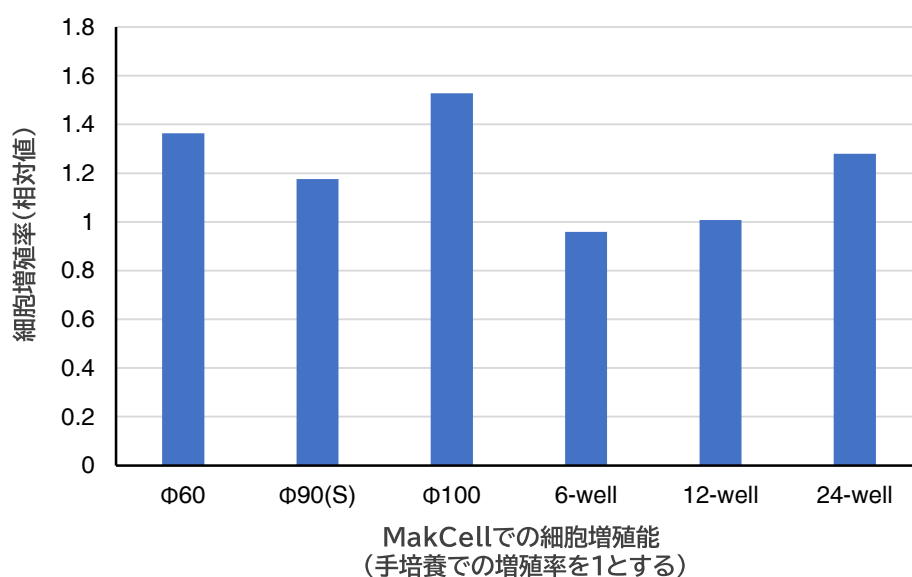
結果

手培養と比べ、MakCellでの培養は、得られた細胞数の増加が確認できた。

細胞の形態については、特に変わった様子は確認できない。また、浮遊する細胞についてはMakCellのみならず手培養ともに確認できる。



ヒトiPS細胞 (培養6日目)



考察

MakCellを使用した場合に得られる細胞数が多い。これは、MakCellはインキュベーター内で培地交換を行うため、手培養と比較して温度環境の変化が少ない。そのことが、細胞増殖の差につながったのではないかと考えられる。

また、細胞の形態については、当装置の培養環境が、通常のCO₂インキュベーターと比べて、遜色ないものであることを示している。ただし、未分化マーカーの発現や分化能、核型解析について確認していないため、今後確認が必要である。

お問い合わせ先

(株)ジェイテックコーポレーション 営業部

〒567-0086

大阪府茨木彩都やまぶき2-5-38

Tel : 072-655-2786 Fax : 072-643-2391